

第3章 生涯学習推進の基本方針

1 基本理念

第4次生涯学習推進計画の施策の成果や課題のほか、市民意識調査結果や市民会議の意見等を踏まえるとともに、今後の生涯学習をめぐる社会の動向を見据え、本計画の基本理念を以下のとおり掲げます。

**描こう！これからのわたしの人生・まちの未来
～人生100年時代を共創する戸田へ～**

生涯学習は、市民のみなさんが自ら学びたいことに向き合うことで、自分らしい人生を歩んでいくことにつながる活動でもあります。

戸田市では、市民のみなさん一人ひとりが学びを通して新たな「気づき」や「発見」を得て、さらに豊かな人生を歩んでいくことができるよう、ライフステージや個別のニーズに応じた学びの機会を提供していきます。また、市民のみなさん一人ひとりが自分自身に向き合い、最適な学びをデザインしていくことで、地域の中で学びの輪が広がり、よりよい地域の共創につながっていくことを目指しています。

2 計画のポイント

本計画のなかで特に重点を置いているポイントを、以下の4つにまとめています。

キッカケづくり

市民が学習活動やまちづくりへの参加の
一歩を踏み出すための
環境づくり

地域で 共に生きるための学び

外国人住民や高齢者、
障がい者等の学びを保障し、
互いに支えあいながら
生きるための学びを得られる
環境づくり

戸田市版 リカレント教育

戸田市の特徴を捉え、
市民の学び直しを支援する
環境づくり

ライフステージに 応じた学び

世代ごとのニーズに
応じた講座の運営や
情報提供

キッカケづくり

【背景】

- ・学習活動の阻害要因となっているのは「忙しさとキッカケのなさ」であることから、市民が気軽に学習に触れられるようなキッカケづくりを行う必要がある。
- ・現在の市のホームページでは生涯学習に関する情報が不足・分散しており、市民の学習意欲に応えられるような情報提供が十分にできていないことから、**市民が学習に触れるためのキッカケの第一歩**として、情報発信の環境整備を工夫して行う必要がある。

【主な取り組み内容】

多様な媒体での学習機会の提供

- ⇒コロナ禍における新たな講座の在り方の検討の必要性
- ⇒忙しい中でもすきま時間で学べる音声配信サービスやオーディオブック、動画による学習機会の提供

情報提供方法の工夫

- ⇒生涯学習関連情報を一元化して提供できる専用サイト立上げに向けた調査研究
- ⇒市民の学びを支援するための相談コーナーの充実化

地域活動への参加のキッカケづくり

- ⇒若者のまちづくりに対する関心の高さ（特に国際交流、障害者支援等の分野）がうかがえることから、より若者がまちづくりの活動に踏み出しやすくするための機会を提供していく

すきま時間を活用した
「耳」で学ぶ音声配信
サービス等の拡充へ

戸田市版リカレント教育

【背景】

- ・都心のベッドタウンであり、埼玉県内で労働人口の割合が高い本市では、通勤と子育て・家事等により学習時間を割けない市民が多いことが想定されるため、**働きながら学ぶ**ことのできる環境を整えることが必要。
- ・市民意識調査では、新たに**学び直したい**ことがあると回答した若年層が多く、資格取得につながる講座や、職業上必要な知識・技能に関する学びについてニーズが高いことがわかった。また、講座を受ける目的を「仕事等でのキャリアアップ」としている割合が20～30代では特に高く、仕事に役立つ知識を身につけたり、さらに深く学ぶためのきっかけを提供することが求められているといえる。

【主な取り組み内容】

就労支援や職業能力を高める学習機会の充実

- ⇒女性の就職・再就職支援に関する講座、起業支援セミナー、労働セミナー、ひとり親向けの就職支援や職業能力を高める学習機会の充実等

情報発信・学び直しの普及

- ⇒専用サイト等での情報配信、音声配信サービス等すきま時間で学べるコンテンツの拡充、継続的な学びにつながる学習記録ツールに関する調査研究、リカレント教育への市民ニーズの調査分析・効果検証

大学等との新たな連携の調査研究

- ⇒資格関連講座等での大学との連携の可能性を調査。戸田市の将来的な福祉サービスへのニーズの高まりを見据え、福祉関連教育の充実化を視野に入れた学習に関する調査・研究

地域で共に生きるための学び

【背景】

- ・市内における外国人住民の増加等を背景に、「誰もが学び続けることのできる社会」の実現を目指し、**外国人住民**や**障がい者**も含めてともに学びあうことのできる機会を拡充していく必要がある。
- ・市民一人ひとりが社会における**多様性**を尊重できるような社会の実現のために、身近な地域のなかでの多様性について体験や交流を通して学ぶ機会をさらに充実させていく必要がある。
- ・「生きる」という観点から、地域で生きていく中で直面する様々なリスクから、地域ぐるみで「**命を守る**」ための自助や共助の力をはぐくむための学びの機会を提供していく必要がある。

【主な取り組み内容】

個別のニーズに対応した学び

⇒情報の多言語化、手話通訳等、個別のニーズへの対応を可能にする仕組みづくり

「命を守る」ための学び

⇒防災・減災関係講座、感染症等の対策講座、外国人防災訓練の開催等

多様性の理解促進につながる講座

⇒市内の外国人住民等との交流等を通して、多様性について触れられる講座の開催

ライフステージに応じた学び

【背景】

- ・**人生100年時代**においては子どもから高齢者まですべての世代に対して、そして**マルチステージ**での学びの継続が求められていることを踏まえ、**発達段階**に応じた段階的な地域での学びの機会の提供や、**ライフステージ**に応じた学びの在り方を講座運営等にも反映させていくことが必要である。

【主な取り組み内容】

世代ごとのニーズに応じた講座の運営

⇒内容、時間、広報手法等、講座のターゲットとなる世代に届くような工夫を行う。

5つのライフステージに区分した学習機会の提供

⇒乳幼児期、小学生期、中学・高校生期、成人期、高齢期に区分し、それぞれのライフステージで必要とされる学びを提供

成人期（若年層）への学びの支援

⇒リカレント教育を中心に展開するほか、若年層で関心の高い地域活動への参加のキッカケとなるような学習機会を提供する。

3 計画の体系

基本方針	施策	方 策
新たな自分に出会う ～学びのキッカケづくり～	学習活動のキッカケの提供	ICTの活用 キッカケとなる講座等の拡充
	情報提供・相談体制の強化	多様な媒体を活用した情報提供体制の強化 相談体制の強化
人生 100 年時代を豊かに生きる ～ライフステージや多様な市民ニーズに応じた学びの提供～	ライフステージに応じた学びの充実	乳幼児期における学びの充実
		小学生期における学びの充実
		中学・高校生期における学びの充実
		成人期における学びの充実
		高齢期における学びの充実
		リカレント教育(社会人の学び直し)の推進
	共生社会の学びの支援	人権意識の高揚
		障がい者の学びの支援
		性別や国籍を問わない学びの支援
	現代的・社会的課題や市民ニーズに応じた学びの充実	「命を守る」学びの推進
		戸田市民大学の充実
		環境教育の推進
		健康寿命の延伸につながる学びの支援
		消費者教育の推進
SDGsの普及啓発		
気軽に活用できる施設を目指して	図書・読書活動の推進	
	郷土博物館活動の推進	
	彩湖自然学習センター(みどりパル)活動の推進	
	公民館等の活動の推進	
	施設・設備の充実	
スポーツ・文化芸術活動の推進	スポーツ・レクリエーション活動の推進	
	文化芸術活動の推進	
まちを元気に ～学びの成果の活用と交流の仕組みづくり～	子どもの「育ち」を支える学校・家庭・地域の力	家庭教育の推進
		学校との連携
		地域との連携
	地域を元気にする学びの推進	地域を知る
		地域で活躍する人材の養成と支援
		地域課題の解決に向けた学びの推進
	学習の成果共有と意欲向上	学習成果の共有
		学習意欲の向上
	協働体制の構築	市民・大学・企業・関係機関等との連携強化
		計画の推進体制